

1 産地の概要

<対象地域> 長生郡長南町

<対象品目> 水稲

<産地の現状・課題>

- ・水田面積1,050ha(水田率84%)と水田が大半を占めているが、中山間地で谷津田が多くなっている。販売農家344名のうち126名は75歳以上(2020年センサス)となっており、高齢化が進んでいる。
- ・集落営農組織や個人農家等の担い手に農地を集積しているが、除草や水管理など機械化が困難な作業が多く、労力不足が問題となっている。
- ・害虫の発生増加や新規需要米を含めた多品種栽培によって作期が分散・拡大し、地域により防除適期が異なっている。このため、航空防除の時期が合わず、谷津田を中心に虫害による品質低下等がみられ、問題となった。

2 検討体制

<長南町農業協議会構成員と役割>

- ・生産者(集落営農法人)(役割:技術実証ほの設置、管理)
- ・長南町(役割:協議会事務局、会計、産地営農体系革新計画の策定)
- ・JA長生(産地営農体系革新計画の策定支援)
- ・ICTベンダー・農機メーカー(技術指導、散布作業受託)
- ・長生農業事務所(技術実証、現地検討会、データ分析、調査など)



リモコン草刈機の検証



ドローンによる薬剤防除の検証

3 新たな営農技術体系への転換

<目指す産地像>

集落営農組織や個別経営体が、省力的な畦畔除草や水稲の生育状況にあわせた適切な防除を実施することで、中山間地域での継続的な営農体系が構築され、農村環境が維持される。



- ①可変施肥田植機導入 ②リモコン草刈機導入
③水位センサーによる水管理 ④ドローンによる防除作業



<新たな営農技術体系の効果(検証結果)>

- ・病虫害防除(薬剤散布) **薬剤散布効果↑** **薬剤散布時間約9割↓**
- 【現状】ラジコンヘリ+粒剤散布(散布適期のズレ、粒剤散布の労力大)
→ドローン(水稲の生育に合わせた散布、粒剤散布の時間削減)
- ・畦畔の草刈り(100m当たり作業時間) **草刈作業時間約9割↓**
- 【現状】刈払い機(70分)→リモコン草刈機(136~178秒)

<新たな営農技術体系の今後の取組内容>

取組主体	R 3	R 4	R 5
長南町 長生農業事務所	技術の現地導入に関する調整、技術体系確立支援など		
生産者 JA長生	実証ほの設置及び管理、技術の検証、機械等の実演会開催		
農機具メーカー	スマート農業機械の情報提供、実証に関する技術指導		